

| | 主な意見 |
|-------------------|--|
| <p>①整備計画に示す内容</p> | <p>●整備計画の策定に必要な視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓口の一本化について、10のプロジェクトでは窓口でできることとそうでないことがあるのでは。内容に応じて「窓口型」と「プロジェクトチーム型」のような形に分けたほうがよい。 ・プロジェクトで、最初の一步をどれにするか、誰に声掛けするかといったスタート部分をイメージしておいた方がもっと良い計画になる。 ・プロジェクト構成について、手順をどうするかはたたき台として行政で作る必要があるが、行政が勝手に作った計画とならぬよう市民や商業者とどうコミットするかが今後の課題。 ・10のプロジェクトが並列しているが、そのプロジェクトの中に幾つかさらに増えていくことを踏まえた、弾力的なプロジェクトスタイルにしたほうがよい。 ・中心市街地に住み続けるという点からのアプローチが不足している。 ・バリアフリーや交通など、それぞれの計画との対応関係をきちんと整理した上で、整備計画として何を行うか整理した方がよい。 ・図面に相模原市側の地図がほとんど載っていない。森野住宅や原町田一丁目を議論するのであれば（相模原市側も）あってしかるべき。 <p>●整備計画のまとめ方・見せ方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地が何を狙っているか対外的な発信の表現を工夫する必要がある。例えば「成熟した都市居住とハイクオリティーの都市サービスの実現」など。 ・各プロジェクトはもう少しソフトが入っていることをうまく伝えるほうがよい。 ・整備計画策定を行ってどう変わるか、整理を行った方がより説得力が増すのでは。 ・取組みによってどう変わったかは、データだけではなく様々な人が満足したかどうか測る方法が必要。 ・整備計画の名前をどうするか検討の余地がある。 |
| <p>②具体的な取組み</p> | <p>●プロジェクトを抽出する上での観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期から長期の使い分けがきちんと定義されていない。すべてのプロジェクトにおいて短期から長期まで含んでいるはずであり、必ずしも今の分け方ではないはず。 ・拠点整備の話が多いが、拠点を結ぶポイントの話がプロジェクトとして弱い。 ・広い歩道にお店を出しやすい環境をどう作っていくか、チャレンジしたい人が出店できる環境づくりをどう行うかは、行政と商業者の連携が必要でありプロジェクト化すべき。原町田方面はまだニーズが沢山あるのでは。 ・駐輪場・駐車場問題への言及が少ない。特にB、Cエリアで受け入れる必要があり、プロジェクトの関連を忘れずにやってもらいたい。 ・子どもセンターは、子供が一人で動くという観点が抜けている。アクセスのための安全性や学び・文化の醸造という観点がもう少し必要、設定を一つ入れてもらいたい。 <p>●多様な回遊・沿道の魅力付けについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来街者が芹ヶ谷公園へアクセスする際、町田街道を通らなければならず非常にネックである。 ・子どもセンターから芹ヶ谷公園に向かう場合、大きく迂回することになるので、小田急の上下を通れるようにするなど対処方策が欲しい。 ・子どもセンターと芹ヶ谷公園間のアクセス向上や公園まで楽しく行ける工夫など、それがひとつのプロジェクトといっても過言ではない。 ・小田急の踏切解消は課題だが、構造的に解決が難しい現状がある。踏切の待ち時間を楽しくするという方向で小田急電鉄には考えてもらいたい。 ・駅からシバヒロまでは、踏切があり、車やバスも通っている。バス路線を変えない限り、より開放的な道路アクセスにはならず、土日祭日は歩行者天国にする位で行わないとシバヒロは生きてこない。 ・ぽっぽ町田がきっかけとなって、シバヒロや市民広場と繋がるような設備が整うと良い。中心市街地活性化協議会では、シバヒロとぽっぽ町田、市民広場を繋げる道路沿いにハンギングバスケットで花をつけ、花の通りにするという社会実験を行う予定。 ・回遊性向上のためのセットバックと言うが、本当にセットバックが必要かどうかは一度考えたほうがよい。 |

| | 主な意見 |
|------------|--|
| ③プロジェクト（案） | <p>①駅前大規模商業施設の更新推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行政も積極的に介入していかないと、民間がバラバラに設備投資等を行うだけになりかねない。更新を誘導する施策が必要。 <p>②界索性・雑多性のある商店街づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「界索性・雑多性のある商店街づくり」は、子育て世代への対応や子供の通り抜け等も関連するので、丁寧に掘り下げる必要がある。 <p>③多機能育成・都市型居住まちづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マンションがまだまだ建つことが考えられるが、これから建つマンションをどう誘導していくか、ルールづくりなどがプロジェクトの中に入ってくるのではないかと。 ・ ②③の両プロジェクトは互いの要素が入り込む所があるので、総合的にしみこむ表現にしたほうがよい。 <p>④広域交通拠点の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小田急町田駅から街に出る際、エスカレーターがなく快適性が低い。構造的な問題もあると思うが、何とか対処してもらいたい。 ・ 小田急町田駅の段差解消は、駅周辺の回遊性において非常に重要。デッキとバリアフリーがうまく接合できていない所があり、行政も巻き込みながら解消できれば。 ・ 駅周辺にバス発着所等が分かるデジタルサインが設置されているが、分かりづらい。行政と交通事業者で一体的な再編整備ができれば。 <p>⑤文化芸術拠点施設の整備</p> <p>⑥原町田1丁目地区拠点整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アクセスデッキの整備や相模原市側の交通広場の整備に関してどのように充填していくか、できることを考えてきたい。ターミナル口は南北を結ぶ形になると思うが、アクセスデッキを作る段階ではなく、駅の在り方そのものを考えてきたい。小田急とJRの乗換動線とターミナル口方面の南北通路をうまく結ぶやり方が取れないか、市や地元と協議しながら進めていきたい。 <p>⑦森野住宅周辺施設 団地再生に伴うまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相模原側からのロードアクセスも検討する必要がある。 ・ 森野住宅は明らかに違うプロジェクトであり窓口の一本化はできないだろう。駅に近いかつ広い場所があるので、有効に活用されるべきと地元やその周辺は思っている。 <p>⑧文学館通り～芹ヶ谷公園の周辺まちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文学館通りを一方通行化して電線が地中化されても、商店街が現状のままであれば、現状とほとんど変わらないのではないかと。賑わいや一休みできる空間にするには、地元の協力が必要。 ・ 芹ヶ谷公園と中心市街地間の整備は、規制ではなく誘導を行うための施策があると良い。 ・ 文学館通りを通過してどれほどの人が来るのか、国際工芸美術館がそれほど魅力あるものか疑問。芹ヶ谷公園をもっと魅力あるものにするためには、よりお金をかけて芸術性を高めていく必要があるのでは。 ・ 芹ヶ谷公園を楽しくするために陶芸や版画等もあるが、少し硬い。オタクを呼ぶサブカルなど、柔らかいもので若者を広域から集めるなどということも考えてみては。ぽっぽ町田で導入しているハイレゾ音源のように、聞くものや見えるものをテーマにしても面白い。 ・ 芹ヶ谷公園の整備は数年後には行われることになっており、もっと中心市街地と関連して位置づけても良い。 <p>⑨原町田大通り賑わいと憩いの空間形成</p> <p>⑩官民連携まちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元民間とはどのような人が掘り下げると、官民連携における民間の在り方にも繋がる。<u>様々な主体を含めたまちの在り方をプロジェクト毎に入れられると良い。</u> |